2025 年度　社会連携教育センター動向

黒岩　亮子

社会連携教育センターは、本学における社会連携活動を支援し推進する役割を担うために、2020 年 4 月に発足した組織である。本稿では、2025 年度における社会連携教育センターの活動およびプログラム内容、本年度の予定や展望について述べていきたい。

1．2025 年度の活動およびプログラム内容

昨年度も社会連携教育センターでは、社会連携・支援事業として、自治体、産学教育連携、正課外学修事業、学内イベント等の様々な取り組みを行ってきたため、これらのうち特記すべき活動について報告することにしたい。

（1）自治体・産学との連携に基づく事業

本学はこれまで文京区、板橋区教育委員会、神奈川県川崎市多摩区、北海道日高管内 7 町、高知県椋原町、岩手県盛岡市と包括的な連携協定を結び、社会連携事業を数多く行ってきた。

文京区とは、本学が妊産婦・乳児救護所の指定場所となっていることから、文京区の防災士を地域の避難所運営リーダーとして育成する「文京避難所大学」を年 2 回開催し、建築デザイン学科の平田京子教授らが講師を勤めた。

川崎市多摩区とは、大学・地域連携事業として社会福祉学科黒岩亮子教授による「地域で活動したい市民のためのキャリアデザインセミナー」と題して多摩区内で活動を実施した。また、例年開催している 3 大学（明治・専修・本学）コンサートを 11 月に多摩市民館ホールにて開催し、本学からは「箏曲研究会」が演奏をおこなった。

板橋区とは、今年度も板橋区立中央図書館において、児童学科の根津知佳子教授による「わらべ歌プロジェクト」や児童学科の今田由香准教授による「親子読み聞かせ講座」「図書館サポーター講座」を実施した。

北海道日高管内 7 町とは、管内各町の課題や問題解決に向けて、各学科教員との打ち合わせを行い、2026 年度に向けた新たな連携活動も実施予定である。

岩手県盛岡市とは、「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」が 3 か年計画の 2 年目となり、食科学科の藤井恵子教授指導のもとで、盛岡市特産品の「雁喰豆（がんくいまめ）」の新たな商品・加工技術の開発をスタートさせており、その成果発表として 9 月には文京区での中間報告会、2026 年 3 月には盛岡市内における報告会に参加した。

「JWU 子育てサイエンス・ラボ」では、2025 年度もメールマガジンやニューズレターの発行や、子育てサイエンス・カフェをオンライン形式で 3 回実施した。また 3 月には本学に親子らを招いて対面形式でも実施し、「みんなの避難所教室」をテーマとして本学が発災した際に「妊産婦・乳児救護所」に指定されるため、実際の現場や準備状況をご案内をし、地域交流と子育て支援を行った。

その他企業としては、日本総合住生活株式会社・株式会社読売広告社・株式会社クボタとの連携活動を行った。

（2）SDGs 推進事業

2025 年度も本学教員による「日本女子大学× SDGs」として、教員による 9 本とともに、事務局による 1 本を加えて計 10 本の SDGs への取り組みをまとめ、公開した。2025 年度末現在で 49 本の記事が掲載されている。

（3）正課外学修支援事業

学生による正課外学修支援事業として 21 年度に立ち上げた「社会連携活動支援助成事業」は 5 年目を迎えたが、2025 年度も書類選考・面接選考を実施し、「アイヌ文化、歴史、伝統及び技術の理解を深める」「北海道平取町の保育施設における地域資源を題材とした運動支援活動」「子どもが四季を感じる経験を通じて、地域の異世代交流を促進し、地域全体のつながりを深める」「那須高原 leu. にてワークショップ開催ならびに地域創生活動」「唐丹町で伝統文化＜釜石さくら祭り 鐵砲隊＞の子供たちへの継承の実践」の 5 件が活動を実施した。3 月には、取り組みにご協力いただいた方々や連携地域の自治体関係者等もお招きして、活動や成果等に関する報告会が行われた。

その他、百二十年館の JWU ラーニング・コモンズかえでにおいて、「ノートテイカー養成講座」「知っているようで知らない NPO」「JAL 社員と考える SDGs」「日本語を母語としない児童・生徒への日本語指導の現状から社会貢献活動を考えよう」「点で打つ文字の世界を体験しよう」「あつまれ！！サンタ村」などのボランティアイベントや交流事業を実施し、学生や近隣地域の子ども達が参加し、交流を行った。

（4）その他

2025 年度も前年度に引き続き、本学における地域や社会連携・貢献活動等が評価され、私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3）「地域社会の発展への貢献（地域連携型）」に選定された。

2．2026 年度の予定と展望

社会連携教育センターは 2026 年度で 6 年目を迎えるが、これまでの本学学生や教員の動向からも、ボランティアや社会貢献に対する意識や関心は非常に高いと感じている。それらをより推進するために、今後も新たな取り組みを積極的に行っていきたい。

また、新規連携先（地域、団体、企業等）の開拓を進めるとともに、既存の連携地域からはニーズを掘り起こし、本学教員の教育・研究活動とのマッチングを推進していく。

その他にもさらなる社会連携や貢献のための事業を検討したいと考えているため、引き続き、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げる。

（くろいわ　りょうこ　社会連携教育センター所長）